

大学・地域共創プラットフォーム香川

令和4年度 第3回 地域活性化部会

令和4年9月20日（火）

- 1 アイデアソン結果報告
- 2 部会構成員アンケート結果
- 3 当面(今年度)の取組みと今後の方向性（案）
- 4 取組みにあたっての基本スタンス（案）
- 5 その他・意見交換

1 アイデアソン結果報告

**「大学・地域共創プラットフォーム香川」
地域活性化部会・アイデアソン（概要）**

1 テーマ : 「若者の定着する香川を目指して」

2 実施時期
第1回 : 7月26日（火）13:30～（3時間程度予定）

内容	説明
アイスブレイク	参加者が互いに打ち解けるための簡単なゲーム
インプットワーク	テーマについて考えるための、香川や地域の説明
アイデアワーク （エモグラフィ）	emotion（感情）+ geography（記述）。 テーマに関するイメージを喜怒哀楽の感情で表現する
スピードストーミング	ペラを入れ替えながら、アイデアについて意見交換
アイデアスキャッチ・ ハイスライト ベストB	アイデアを速く表現。 全員で「面白い」や「実現しそう」などの絵に「お」付け ベスト8の発表

など

第2回 : 8月10日（水）13:30～（2時間半程度予定）

内容	説明
プレスリリース・ プロトタイプブラッシュアップ 審査・選評	ベスト8に選ばれたアイデアをブラッシュアップし、 プレスリリース案を作成 参加者相互による審査・委員による選評

など

3 会場 : 香川大学オーリブスクエア（両日とも）
※ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。

4 司会・進行等 : 香川大学 神田講師ほか

5 参加メンバー : 40名程度予定
（1グループ6名程度×7グループ）

自治体職員・地域おこし協力隊（OB、OG、移住者）
20～25名程度（各市町・県1～3名程度）、
大学生10～15名程度（各大学2～3名程度）、
企業の経営者や社員等5～10名程度

お問い合わせ先：
香川県政策部地域活力推進課
TEL: 087-532-3105
担当: 大久保



	アイデアソン内容	キーワード	
A 就業支援	身近に魅力的な企業があると思ってもらえるよう、 成人式などの大きなイベントごとで県内の企業PR	場の活用	
B 地元愛・進学	学生が企画する、 香川の資源や自然の良さを伝えるツアー	共感	
C 商店街活性化	地域の人と資源、地域の今と過去をつなぐ、 魅力ある商店街づくり	持続性	ゆっくり・スロー、 おおらか、 明るい、
D コミュニティ形成	移住に対する不安・ギャップ解消のため、 移住者が気軽に相談できる関係案内所	多様性	人とのつながり、 外とのつながり、 チャレンジできる、 失敗できる
E 働き方改革	二拠点生活を実践するため、 おためしで泊まれるウィークリー古民家	働き方	
F 観光	香川の良さに県民が気付くため、 日常的に香川の魅力を味わい満喫できる、 移動型フェスティバル	心地よい生き方	
G 起業	挑戦できる環境づくりのため、 起業の成功体験や失敗体験が蓄積できるような、 設備やエリア等の提供	循環する仕組み	

地域活性化部会 アイデアソン報告・意見交換会

日時：R4.8.25（木） 16:00～17:30

場所：香川大学 幸町南キャンパス 又信記念館2階 第二会議室

出席：大学等4、中小企業家同友会1、市町10、県3、事務局2 計20名

内容：アイデアソンの報告、アンケート結果報告、グループワーク形式意見交換

アイデアソンを踏まえ、PFでやってみたいことは。	(就職)大規模な企業紹介で、学生の思い込みから選択肢を広げたい。	(就職)企業を知ることで、地域を学ぶことが大事。	(就職)ことでんに就活生を乗せて就職ツアーを実施する民間企業がある。	現在の課題、どうやったら出来るか。	(就職)地域の産業構造が転換しないと、大卒は帰ってこない。	(就職)就業支援の前に、いかに地元企業を育てるか。	(就職)学生の目に留まる仕組みが必要。どう情報発信するか。
(就職、地元愛)若い時からのキャリア教育が地元愛につながる。	(地元愛)市内のうどん屋スナック等と学生と連携したい。	(進学)保護者の影響が大きく、保護者等に企業PRできれば。	(コミュ)関係案内所は、丸亀広島や三豊市内で同じ様な事を行っている。	(就職)県内の企業のこと、学生のことをよく知らない。	(就職、地元愛)産業が認知出来る仕組みづくりが必要ではないか。	(コミュ)〇〇町に住みたい(地域名)より、「田舎暮らしがしたい」が移住理由。	(コミュ)市町で移住者を取り合っている先が知っている。
(コミュ)ゆるいハローワーク的なものはどうか。	(二拠点)アドレス社の仕組みが活用できるのでは。(例、観音寺物件改装中)	(二拠点)住所を2か所認める制度になれば。(さぬき市長との会談で話題)	(二拠点)綾川町のANAタイアップ事業(宿泊等「お試し滞在」を検討)は参考。	(空き家)皆が使いがらない空き家が多い。仏壇問題も大きい。	(二拠点)移住者が地域コミュニティにどこまで入っていけるかが課題。	(二拠点)リターン促進できる土壌づくりをするのがいいかも。	(二拠点)現在の二拠点では子どもの学ぶ場所が限定されている。
(二拠点)市としても移住案内所はしていきたい。	(観光)「イタリアなかがわ(移動型フェス)」は、小豆島などで実現可能では。	(観光)香大農学部生がひまわり畑で実施するプロジェクト等が参考。	(起業)セトウチアイベースとのコラボは面白い。	(観光)若い人の価値観はスローのんびり。これを外すと支持されない。	(全般)一自治体で新しいイベントは困難。複数自治体や学生等の巻き込みを。		
PFで現実的に取り組めそうなことは。	(就職)何のために企業が存在するかを見て、知ってもらおう。	(地元愛、就職)同友会のインタビューシートの拡大展開。対保護者・中学生等	(地元愛、観光)学生の感性から、観光が聞けやすい。(イタリアなかがわは厳しい)	その他、意見。	(空き家)税制とセットで考える必要がある。	(コミュ)自然発生的な方が長持ちするのではないかと。	(全般)テーマは全部つながっている。(就職支援⇔働き方など)
(地元愛)学生等によるSNS発信はすぐにできる。	(コミュ)民間の旅館、コワーキングスペースは活用すべき。	(産業)地元企業の困り事に学生が関わる。(DXなど)	(起業)起業家とアイデアソンしたい。	(全般)学生の視点を生かし、力を借りるのにはあり。	(全般)アイデアソンを通じ、学生を含めて、つながりが生まれたのは大きい。		
(全般)学生を入れ、掘り下げて議論する機会が必要。	(全般)時間をかけて議論するもの、1つ2つ成果として出せるもの、に分ける。	(全般)アイデアを実際に形にしてみるハッカソンも。(アプリ開発等)					



2 部会構成員アンケート結果

実施日：9月1日～7日

項 目：地域活性化部会における今後の進め方について

Q 1 地域活性化部会で今年度取り組む当面の取組み案（幹事案）について：賛成 19、意見あり・その他 5

- （主な意見）
- ・「学生ニーズ調査」は意見集約、事業化に時間を要するのではないか。
 - ・学生等が参加しやすい仕組みを検討する必要がある。
 - ・「地域DX」は官も含めてコラボしてはどうか。
 - ・4つのテーマを今年度同時に進めるのはスケジュール的に厳しいので、2年程度の時間をかけて取り組むものがあってもよい。

Q 2 当面の取組み案の決定及び部会の開催について：部会開催（書面含む）12、部会省略・その他12

Q 3 WG（ワーキンググループ）の設置・活用について：設置する15、設置しない・その他9

- （主な意見）
- ・他の部会と関連するテーマについては、部会の枠を超えたWG設置がよい。

Q 4 WGを設置する場合のリーダーについて

- （主な意見）
- ・（香川大学としては、）「地域DX」にリーダーとして取り組みたい。

Q 5 その他、ご意見・ご要望等

- （主な意見）
- ・アイデアの具体化・事業化ばかりが目的化しないよう、連携を深めたい。
 - ・どの案もまずはブレストによる課題共通認識と方向性確認作業が重要と思う。
 - ・生涯教育は地域活性化につながるので、公開講座なども検討いただきたい。

3 当面(今年度)の取組みと今後の方向性 (案)

テーマ	令和4年度	令和5年度
観光、郷土愛	【WG】グループワーク「学生企画ツアー等」、 モデル実証	(令和4年度の 取組みを踏まえ、) 関係機関等と連携して 実証・実践
地域DX	【WG】グループワーク「中小企業と学生のタイアップ」、 モデル実証	
関係人口(関係案内所)	【WG】勉強会「県内自治体等の取組」、 グループワーク	
郷土愛、進学、就職	【WG】グループワーク「学生ニーズ調査」、 モデル実証 ※他の部会と連携	

テーマ	令和4年度	令和5年度
働き方、二拠点、 商店街活性化	(状況を見てWGにてグループワーク等)	
就職、起業支援	(状況を見てWGにてグループワーク等) ※就職・産業振興部会関連	

4 取組みにあたっての基本スタンス（案）

<議論・実証・実践を進めるにあたってのポイント>

- ・常に部会の趣旨・目的を念頭におく

PF規約（2条）地域社会・地域経済を支える人材の育成・定着及びその人材が活躍する場の形成に向けた議論と実践による共創を通じて、地域社会の発展に寄与することを目的とする。

部会規程（2条）部会は、総会及び運営委員会の方針を受け、次に掲げる事項を所掌し、関連事業を実施する。

イ 県内大学等と連携した地域社会を支える人材の育成及び人材の定着に関する事項

ロ 県内大学等と連携した地域づくりに関する事項 ハ その他地域の連携促進に関する事項

- ・当事者意識を持ってPFの運営に関わる
- ・学生や企業等を交え、議論（課題の深掘り）
→ 必要に応じ検証・実証→ 実践の積み重ね
- ・取組みにあたって情報はオープンに